

群馬県議会 フォーラム群馬

vol.3

後藤かつみ

県議会だより

平成18年度決算審査が終了

全国トップクラスの健全財政を維持

11月15日に平成18年度の決算審査が終了し、群馬県においては実質公債費比率が全国2位となるなど、引き続き健



フォーラム群馬が知事に新年度予算要望書を提出

財政再建優先を強く主張

全財政を維持していることが明らかになりました。

しかし、県債残高は減少に転じたとはいえ、依然として1兆円近くに上る状況です。子どもたちの世代にこれ以上の負担を残さないためにも、一層の健全化努力が求められます。

今後の見通しは不透明

しかし、知事が交代した9月議会以降、議会では与党議員から「プライマリーバランス黒字堅持の公約にこだわる必要はない」「借金をしてでも公共事業予算を増やすべき

だ」といった歳出増を求める声が鳴り止みません。このような声に対し、大澤新知事がどれだけ毅然とした態度で臨めるかは不透明な状況です。

後藤かつみは、議会の中で「今、優先すべきは財政再建であり、これ以上次世代に負担を残してはならない」と強く主張しました【3面参照】。

主な財政指標の状況

- 県債残高** (県の借金の残高)  
**9,592億円** (43年ぶりに減少)
- プライマリーバランス**  
(黒字=借金を増やさずに財政運営ができていることを示す)  
**370億円の黒字**
- 積立基金残高** (将来の不測の事態等に備えた貯金)  
**463億円** (26億円増)
- 実質公債費比率**  
(県債の返済による財政負担の度合いを表す指標)  
**10.2%** (全国2位)
- 経常収支比率**  
(財政に「ゆとり」があることを示す指標。低いほど良い。)  
**92.3%** (ほぼ全国並み)